

2. 医学部、歯学部、薬学部、医歯薬学研究部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 7)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 研究者と研究支援・産官学連携センターとの間で発明相談や面談を頻繁に行い、実用化が見込める研究に対して集中的に支援を行う体制を構築するとともに、医薬品分野の知的財産部門での経験が豊富な担当者による調整の下、製薬企業等と産学連携を進めるなど、戦略的な産学連携活動を展開している。
- 科学研究費補助金について、「本務教員あたりの内定金額（間接経費含む）」では、第2期中期目標期間最終年度（1,416千円）と比較して、平成28年度～平成31年度の4年間の平均（1,536千円）が上回っている。
- 科学研究費補助金以外での大型外部資金の獲得実績として、日本医療研究開発機構では、難治性疾患実用化研究事業「大量メチルコバラミン筋注によるALSの治療薬開発研究（H29～R1）」（総額341,200千円）や橋渡し研究戦略的推進プログラム「ナローバンドUVBを発光するLEDを用いたアレルギー性鼻炎の光治療装置の開発（H29～R1）」（総額128,000千円）等の受託研究の獲得がある。
- 平成30年度に「宇宙栄養・食糧学」に特化した我が国唯一の研究機関となる宇宙食品産業・栄養学研究センターを設置した。当センターは、21世紀の宇宙大航海時代にふさわしい“宇宙食”の研究・開発や、企業との共同研究による宇宙植物工場の実用化、宇宙食産業の基盤形成を目指しており、宇宙航空研究開発機構（JAXA）やフランス国立宇宙研究センター、Yonsei大学（韓国）など国際的な連携による研究活動を行っている。また、多種多様な30以上の企業・研究機関・大学等の共創により世界初の宇宙食料マーケット創出を目指す「Space Food X」プログラム（JAXAの共創型研究開発プログラムとして実施）に国立大学では唯一参画している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、17件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。